

# 古代以前の七尾城跡について

久田正弘

## 1 はじめに

石川県七尾市内の七尾城跡は中世の山城として有名であり、一部が国指定史跡に登録されている。七尾市教育委員会が中心となって発掘調査が行われてきたが、能越自動車道建設に伴い、石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施（第2図）し、その一部が報告された（三浦ほか2020・藤田ほか2021）。筆者は現場担当者ではないが、古代以前・木製品の報告を担当することになった。古代以前は図版が作成されており、時間と頁の関係から報告書に実測図の追加や遺構との関係を提示出来なかった。報告書の刊行後に、選別された資料の中から未実測の遺物を図化し、報告済みの資料とともに遺構との関係をみてみたい。

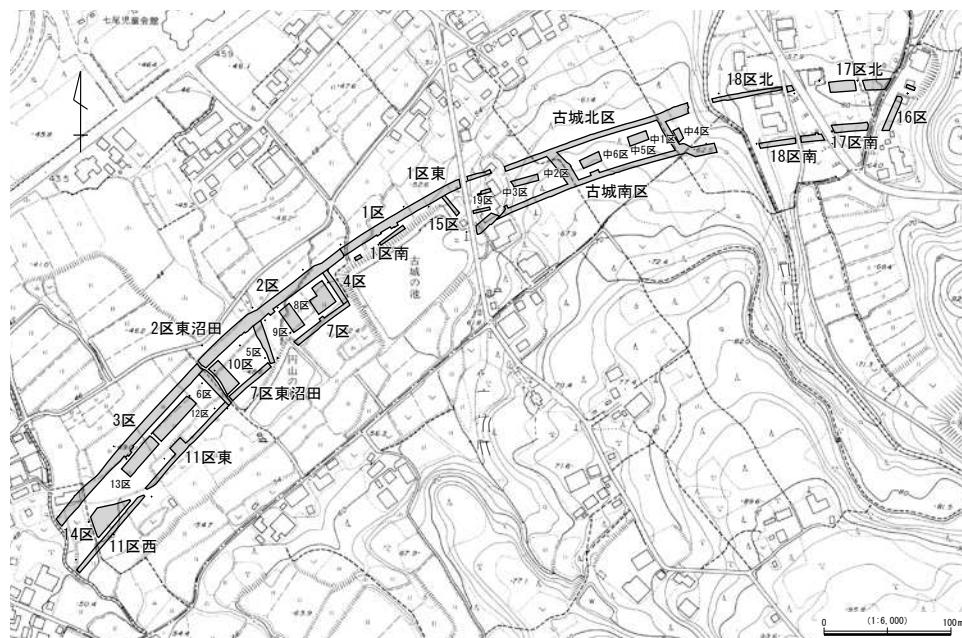
## 2 各調査区の出土遺物について

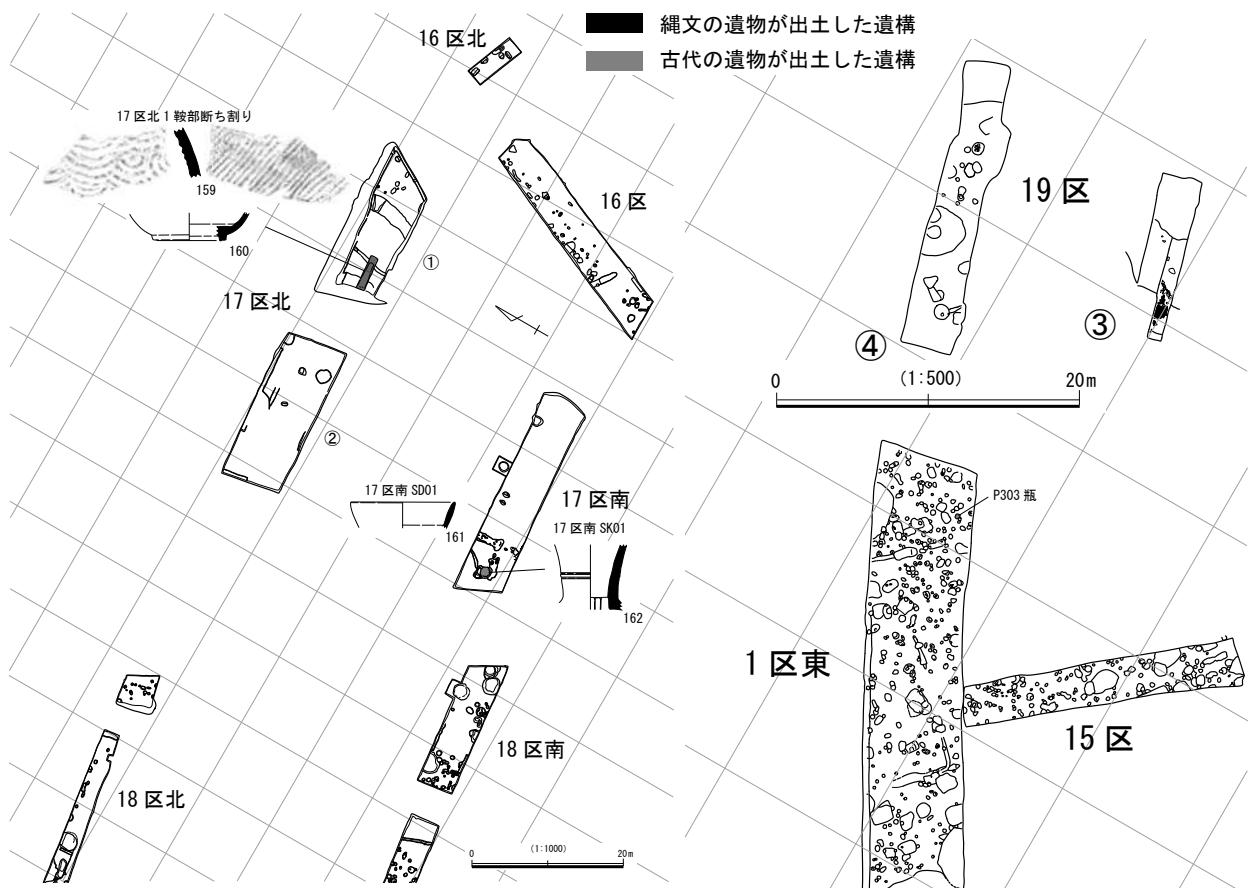
まずは、調査区東側の16～18区（第2図）は谷部（第3図蹴落川地区）であり、17区から第11図159～162を報告した。17区南は中世の遺構（第11図161・162）、17区北は確認トレンチ（159・160）から出土した。谷部の同一面か下層面に古代の集落が存在した可能性があろう。

丘陵上の古城地区（第2・4図）では、古城北3区～古城中2区で縄文時代の石器と古代の有台壇を報告（第11図156～158）したが、選別されていた遺物は無かった。19-2区版築盛土の須恵器（藤田・久田2021第7図67）は朝鮮陶器であろうかと判断したが、現在は瀬戸・美濃焼の筒状香炉が被熱を受けたものと判断している。

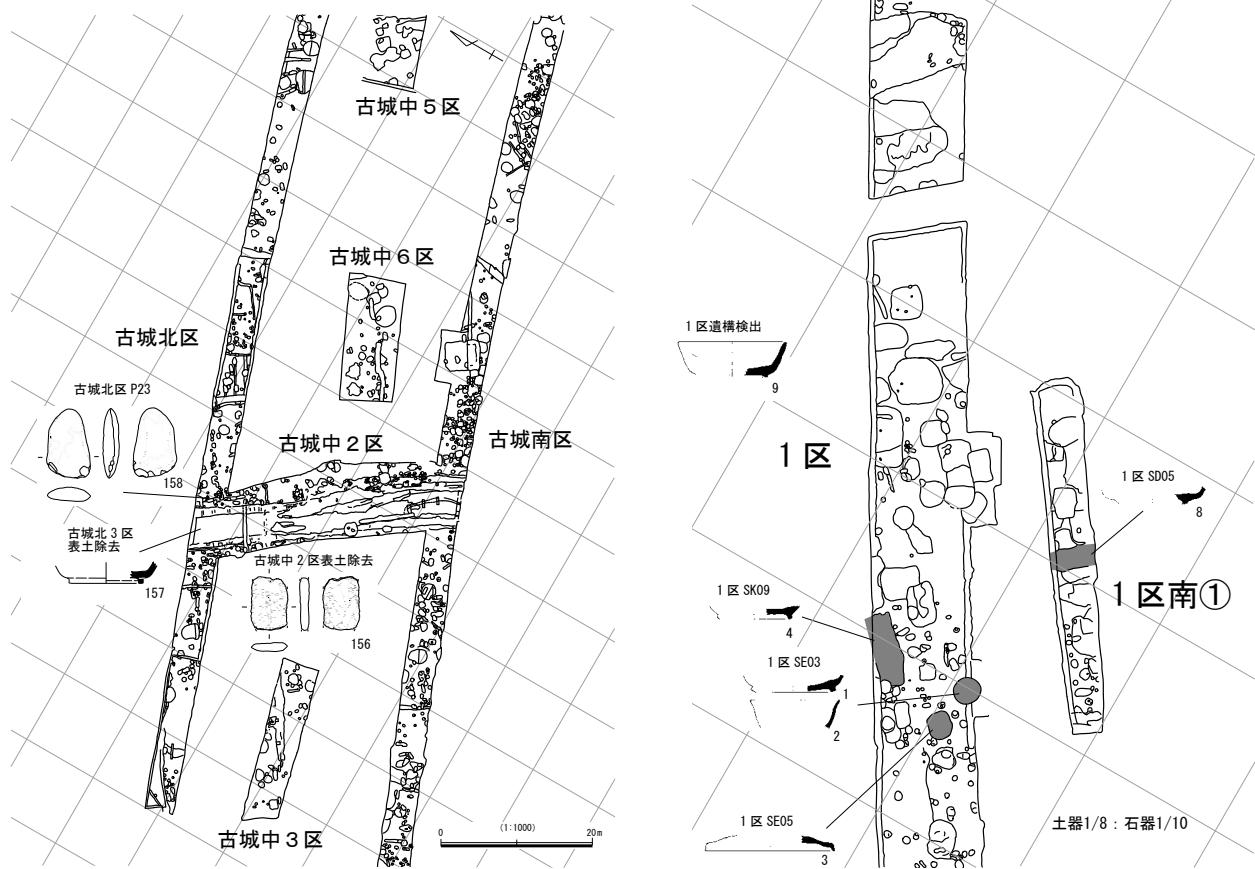
総構の外側は、1区東～3区：15区～11区西（第5～8図）にあたり、中央に沼田（鞍部）がある。1区東・15区（第5図）では、古代以前の遺物は殆ど出土していない。1区（第5・6図）では中央部の遺構から古代の須恵器（第9図1～9）が出土しているが、遺構の時期は中世であろう。

2区は1区西側～2区東沼田の間にあたり、南側に4・7～9区がある（第6図）。第9図10～54



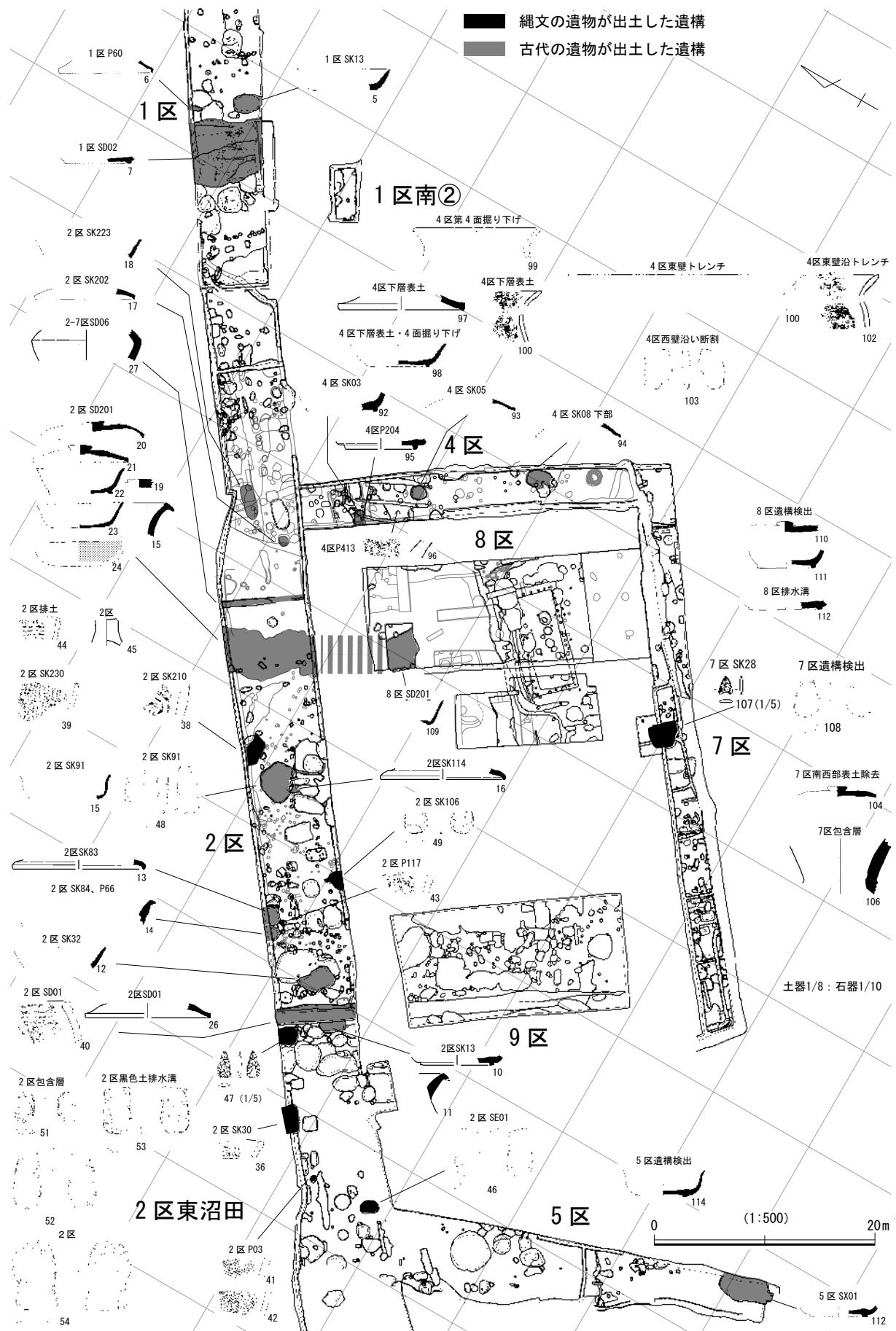


第3図 調査区全体図1(部分)

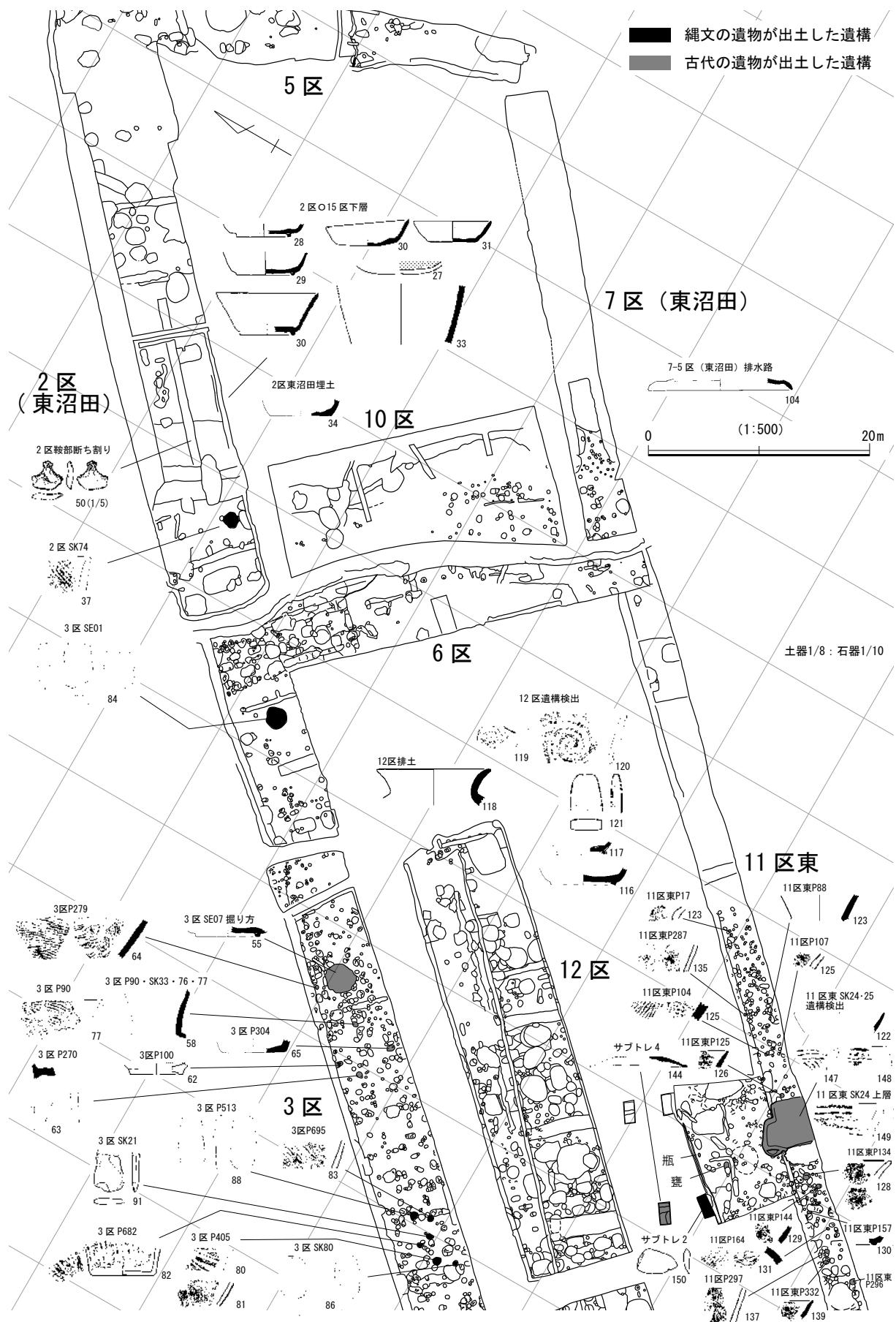


第4図 調査区全体図3

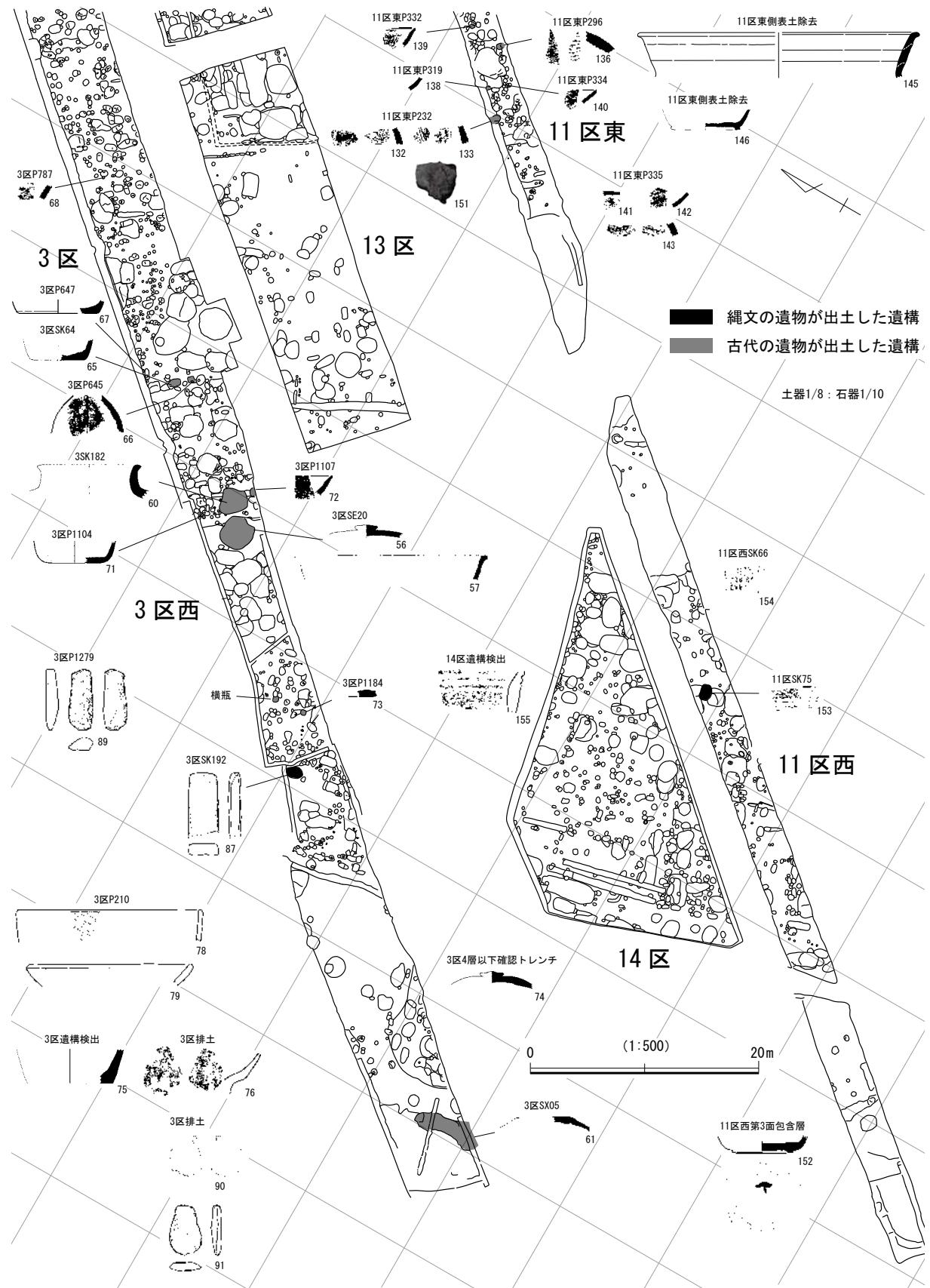
第5図 調査区全体図4(部分)



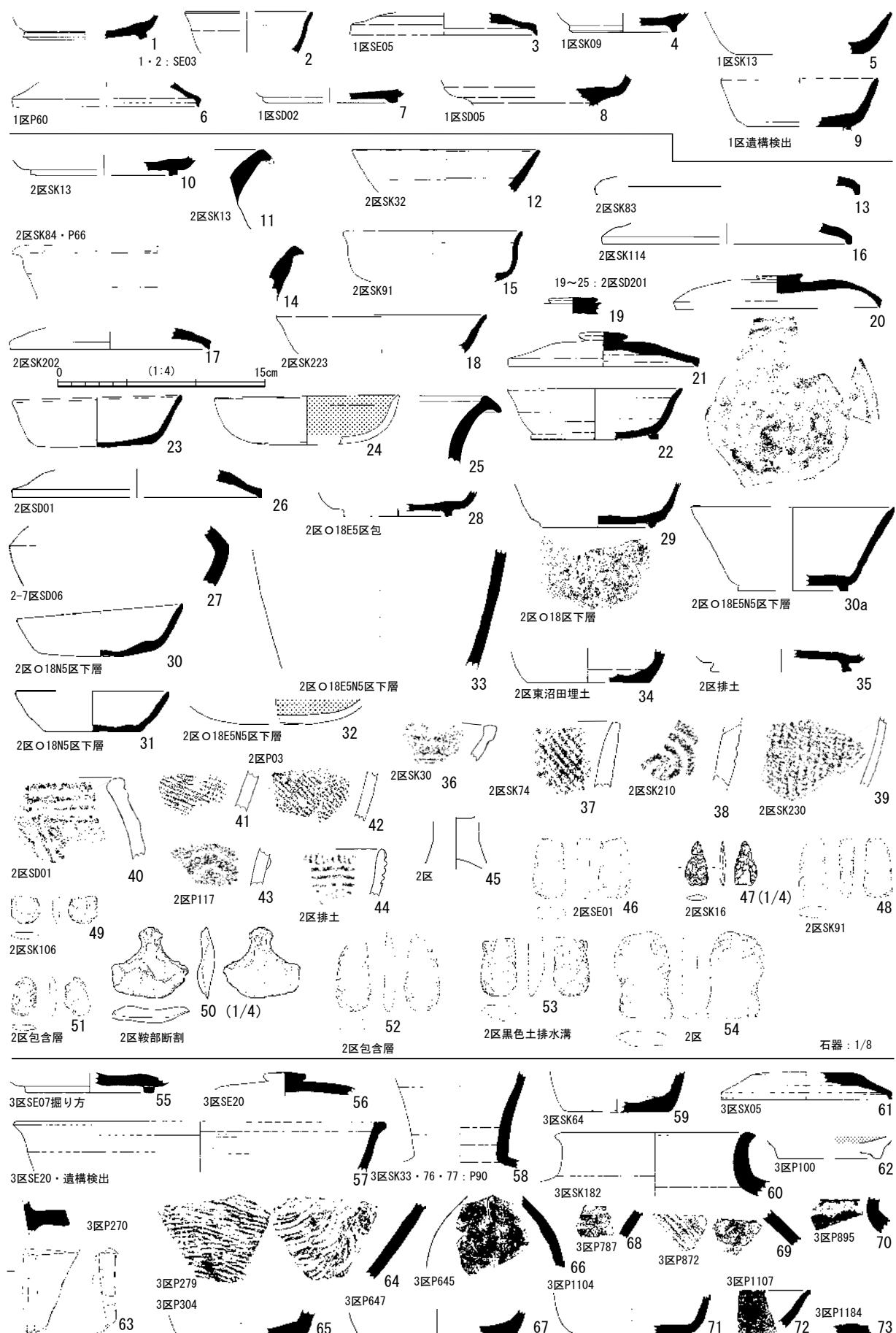
第6図 調査区全体図5



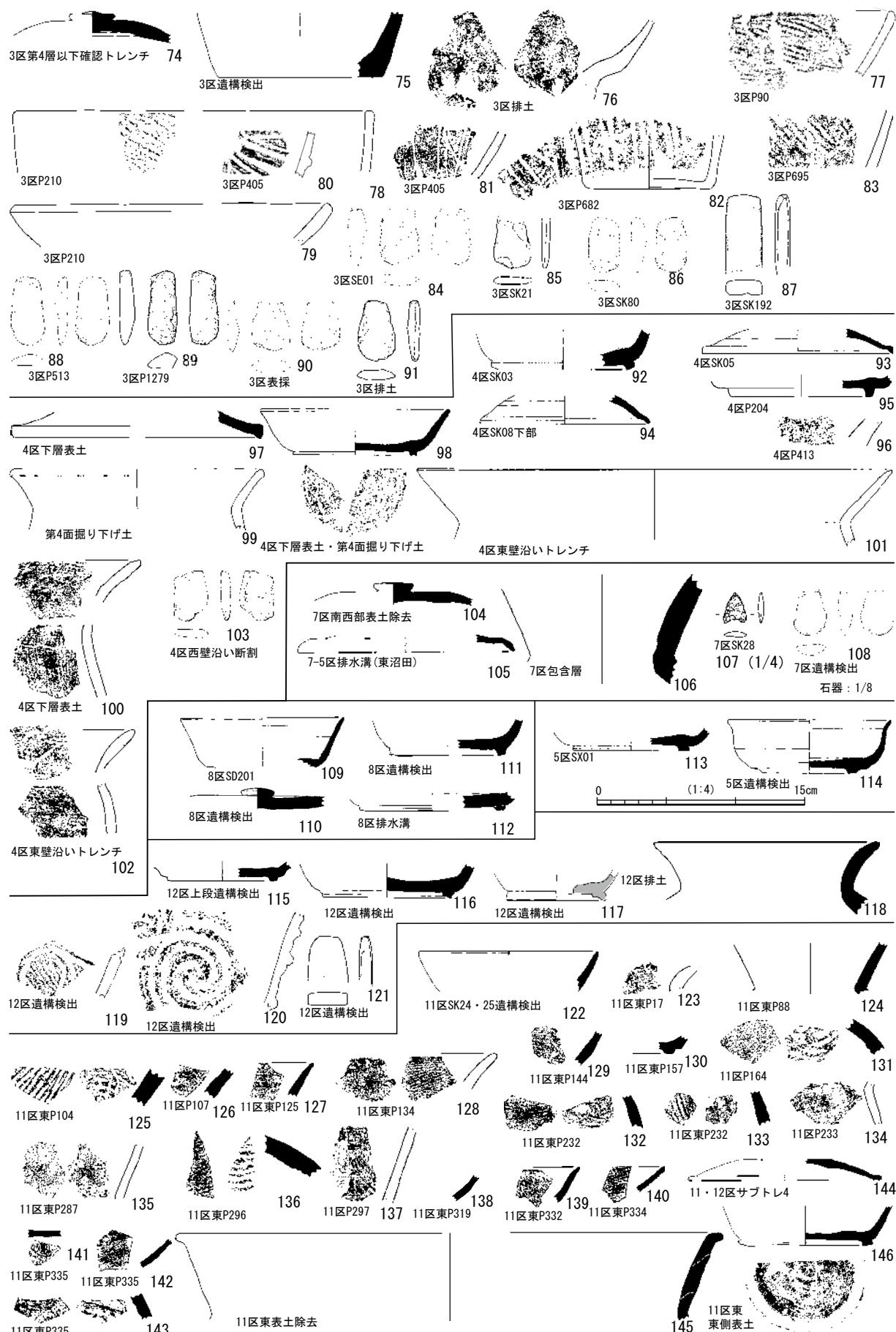
第7図 調査区全体図 6



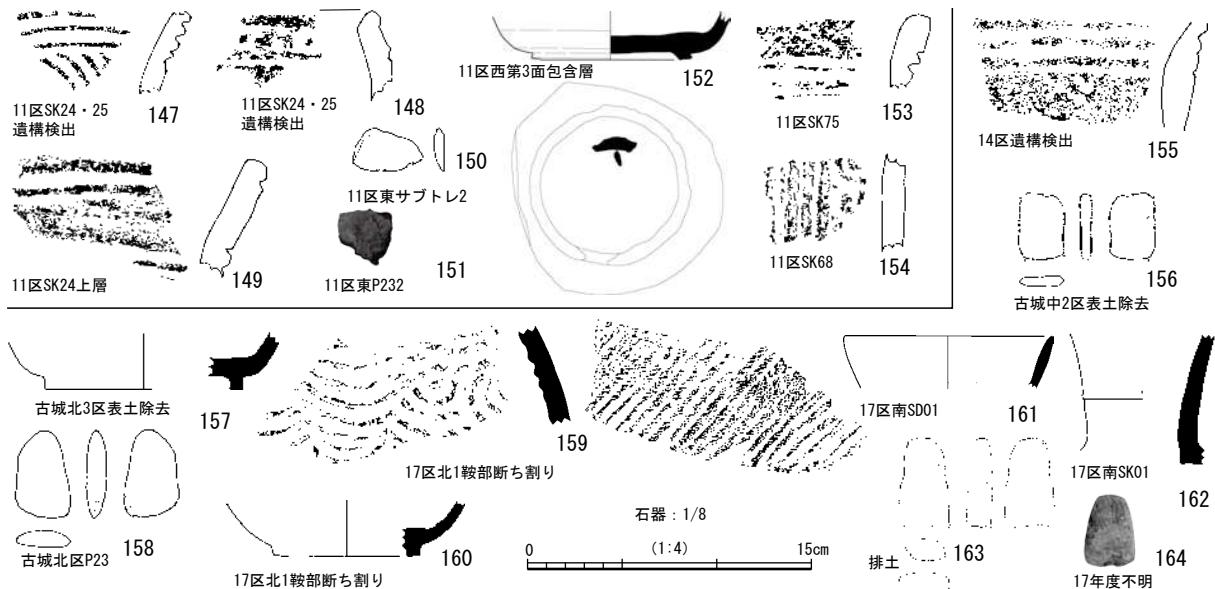
第8図 調査区全体図7



第9図 古代以前の遺物 1



第10図 古代以前の遺物2



第 11 図 古代以前の遺物 3

を提示した。古代の遺物は 3 箇所に分散しており、自然河道 SD201（8 区 SD201 に続く）は北陸古代Ⅳ期（田嶋 1998）が少しまとまっているが、他は中世の遺構からの出土であろう。2 区から弥生土器の高坏（45）、縄文時代では中期前葉後半～中葉の土器、打製石斧（石鉤）などが出土している。

2 区東沼田の下層（第 7 図、自然河道か）から、Ⅳ～VI 期（28～32）が出土し、周辺などから縄文土器 37・打製石斧 84 も少し出土している。

4 区は 2 区の南東側（第 6 図）に位置し、4 面の確認調査が行われた。2 面には石組井戸（SE301）があり、4 面より下には遺構・包含層は確認されなかった。第 10 図 92～103 を提示した。須恵器は中世の大型遺構からの出土と思われるが、下層表土（97・100）や 4 面掘り下げ土（98・99）は古代の包含層出土と想定されることから、古代の遺構面も下層などに想定されよう。

8 区は 4 区の西側（第 6 図）にあたり、確認調査のみである。第 10 図 109～112 を報告したが、選別された遺物はない。8 区 SD201 は 2 区 SD201 に続く自然河道であり、109 を報告した。

7 区は 2 区の南側に並行する調査区（第 6 図）であり、縄文時代の石器（第 10 図 107・108）と古代の須恵器（104～106）を報告した。その西側には 7 区東沼田（第 7 図）があり、排水溝から第 10 図 104 が出土した。

5 区は 2 区東沼田の南側に位置する調査区（第 6・7 図）であり、古代の須恵器（第 10 図 113・114）を報告した。

3 区は 2 区の西側に位置する調査区（第 7・8 図）であり、3 区西（第 8 図）も設定されている。第 9 図 55～第 10 図 91 を提示した。古代の遺物は、2 箇所に集中するが、出土した大きな遺構の時期は中世と思われる。縄文土器・打製石斧は第 7 図下側に集中しており、縄文の遺構（竪穴住居）の可能性もある。しかし、中世の遺構の可能性が高いならば、周辺に縄文の遺構か包含層が存在したと判断できよう。82 の拓本は左側を追加し、P405 は 80 以外に 81 を図化した。3 区 P100 出土の土師器内黒有台塊は 10～11 世紀代（VI・VII 期）と思われ、古代の中では一番新しい。3 区排土には、古代の製塩土器（尖底）が存在した。棒状尖底は短いと思われ、内面にはシボリがあり、外側は棒状部の接合には指頭圧痕を持つ。胎土には海面骨針を含む。

11 区東は 7 区東沼田の西側に位置する調査区（第 7・8 図）であり、その西側に 11 区西が存在する。

第10図122～第11図154を提示した。古代以前の遺物が出土した大型の遺構は中世と思われるが、再片の遺物はピット出土が多いので時期の特定は難しいと思われる。今回提示した未報告資料は全て細片だが、煮沸具（123・128・134・135・137）があるので、周辺に古代の集落が存在した可能性が高いと思われる。縄文土器は中世の遺構からの出土と思われるが、前期後葉の福浦上層147、中期前葉後半の徳前式148・149が確認される。11区西では中期中葉153・154、14区では中期前葉後半が確認された。

12区は3区と11区東の間にある調査区（第7図）であり、西半分が大きく削平されているようである。遺構検出や排土から、第10図115～121を報告した。119・120は中期中葉であろう。

13区は12区の南側に位置する調査区（第8図）で北東隅以外は削平されているという。古代以前の遺物は選別されていないようである。

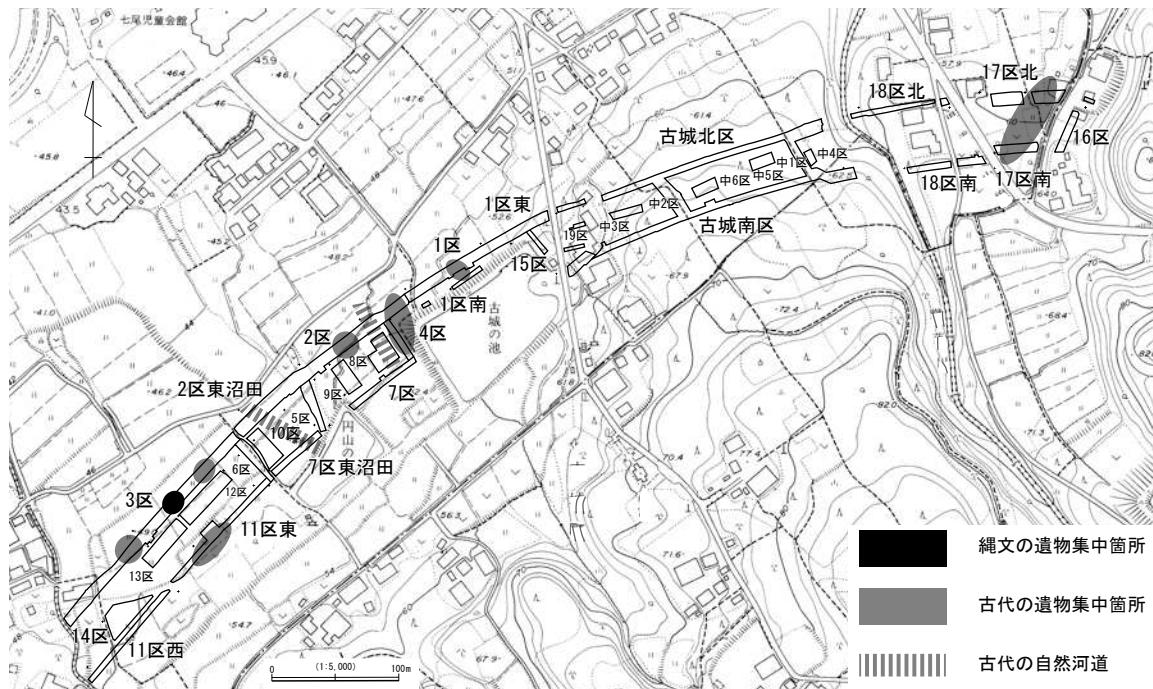
14区は13区の南西側、11区西の北側の調査区（第8図）であり、遺構検出で出土した第11図155を報告した。縄文中期前葉後半～中葉初頭（徳前～新崎式）であろう。

表1 遺物観察表

番号	区	遺構名	種類	器種	番号	区	遺構名	種類	器種	番号	区	遺構名	種類	器種
1	1	SE03	須	有台坏	42	2	P03	繩	深鉢	83	3	P695	繩	深鉢
2	1	SE03	須	坏	43	2	P117	繩	深鉢	84	3	SE01	石	打製石斧
3	1	SE05	須	蓋	44	2	排土	繩	深鉢	85	3	SK21	石	打製石斧
4	1	SK09	須	有台坏	45	2		弥	高坏	86	3	SK80	石	打製石斧
5	1	SK13	須	無台坏	46	2	SE01	石	打製石斧	87	3	SK192	石	磨製石斧
6	1	P60	須	蓋	47	2	SK16	石	石鎌	88	3	P513	石	打製石斧
7	1	SD02	須	有台坏	48	2	SK91	石	打製石斧	89	3-2	P1279	石	打製石斧
8	1	SD05	須	有台坏	49	2	SK106	石	打製石斧	90	3	表採	石	打製石斧
9	1	遺構検出	須	無台坏	50	2	鞍部断ち割り	石	石匙	91	3	排土	石	打製石斧
10	2	SK13	須	有台坏	51	2	包含層	石	打製石斧	92	4	SK03	須	有台坏
11	2	SK13	須	瓶	52	2	包含層	石	打製石斧	93	4	SK05	須	蓋
12	2	SK32	須	坏	53	2	黒色土排水溝	石	打製石斧	94	4	SK08下部	須	蓋
13	2	SK83	須	蓋	54	2		石	打製石斧	95	4	P204	須	有台坏
14	2	SK84、P66	須	壺	55	3	SE07掘り方	須	有台坏	96	4	P413	繩	深鉢
15	2	SK91	須	坏	56	3	SE20	須	蓋	97	4	下層表土	須	蓋
16	2	SK114	須	蓋	57	3	SE20、遺構検出	須	鉢	98	4	下層表土・4面 掘下げ土	須	有台坏
17	2	SK202	須	蓋	58	3	P90、SK33、 SK76、SK77	須	瓶	99	4	4面掘下げ土	土	甕
18	2	SK223	須	坏	59	3	SK64	須	瓶	100	4	下層表土	土	甕
19	2	SD201	須	蓋	60	3	SK182	須	短頸壺	101	4	東壁沿いトレン チ	土	甕
20	2	SD201	須	蓋	61	3	SX05	須	蓋	102	4	東壁沿いトレン チ	土	甕
21	2	SD201	須	蓋	62	3	P100	土	有台坏	103	4	西壁沿断割	石	打製石斧
22	2	SD201	須	有台坏	63	3	P270	須	双耳瓶	104	7	南西部表土除去	須	蓋
23	2	SD201	須	無台坏	64	3	P279	須	甕	105	7	7-5区排水溝	須	蓋
24	2	SD201	土	塊	65	3	P304	須	瓶	106	7	包含層	須	瓶
25	2	SD201	須	甕	66	3	P645	須	壺	107	7	SK28	石	石鎌
26	2	SD01	須	蓋	67	3	P647	須	無台坏	108	7	遺構検出	石	打製石斧
27	2	SD06	須	瓶	68	3	P787	須	瓶	109	8	SD201	須	有台坏
28	2	O18E5区包含層	須	有台坏	69	3	P872	須	甕	110	8	遺構検出	須	蓋
29	2	O18区下層	須	有台坏	70	3	P895	須	甕	111	8	遺構検出	須	有台坏
30	2	O18N5区下層	須	無台坏	71	3	P1104	須	無台坏	112	8	排水溝	須	有台坏
31	2	O18N5区下層	須	無台坏	72	3	P1107	須	坏	113	5	SX01	須	有台坏
32	2	O18E5N5区下層	土	内黒塊	73	3	P1184	須	坏	114	5	遺構検出	須	有台坏
33	2	O18E5N5区下層	須	瓶	74	3	第4層以下確認 トレンチ	須	蓋	115	12	上段遺構検出	須	有台坏
34	2	東沼田埋土	須	瓶	75	3	遺構検出	須	瓶	116	12	遺構検出	須	有台坏
35	2	排土	須	有台坏	76	3	排土	製塙	尖底	117	12	遺構検出	綠	有台坏
36	2	SK30	繩	深鉢	77	3	P90	繩	深鉢	118	12	排土	須	瓶
37	2	SK74	繩	深鉢	78	3	P210	繩	深鉢	119	12	遺構検出	繩	深鉢
38	2	SK210	繩	深鉢	79	3	P210	繩	浅鉢	120	12	遺構検出	繩	深鉢
39	2	SK230	繩	深鉢	80	3	P405	繩	深鉢	121	12	遺構検出	石	磨製石斧
40	2	SD01	繩	深鉢	81	3	P405	繩	深鉢	122	11東	SK24-25遺構検 出	須	坏
41	2	P03	繩	深鉢	82	3	P682	繩	深鉢	123	11東	P17	土	甕

### 3 おわりに

七尾城跡では、中世の遺物が大量に出土し、大量に図化されている。しかし、縄文時代前期後葉～中期中葉の縄文土器、縄文時代の石器、弥生時代の高坏、古墳時代以降の土師器甕、古代の須恵器・土師器の出土が確認できた。古代以前の遺物は細片が多いことや中世の大型遺構からの出土が多いので、中世の時期に遺構や包含層は破壊された可能性が高い。しかし、縄文時代では3区で遺物が集中する箇所（第7図下）があり、竪穴住居が想定されよう。古代は、2・8区SD201と2区東沼田の鞍部（自然河道）に土器がまとまって出土する程度だが、2・8区SD201の周辺（4・7・8区）や3区の東側・西側や11区東には、古代の遺物が少し出土しているので、周辺に古代の掘立柱建物などが存在した可能性が想定される（第12図）。また、17区周辺にも古代の遺構が存在した可能性が想定される。そして、第9図62を図化したことにより、10・11世紀代にも遺構が存在した可能性が指摘出来た。



第12図 遺構配置概念図

筆者は、古代の遺物についても詳しく語る素養はないが、報告書未掲載遺物の報告と出土遺構を提示したので、今後の報告や論文などに寄与できれば幸いです。遺跡の報告では、遺構編と遺物編に分けて刊行するやり方もあるが、その場合には総括編などで遺構と遺物の関係を明らかにすべきであろう。今回、一部の遺構の位置を特定出来なかったことが悔やまれる。報告書作成から本稿まで、伊藤雅文、金山哲哉、川畑 誠、藤田邦雄、和田龍介氏の協力を得た。

### 参考文献

- 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988 『北陸の古代土器研究の現状と課題』
- 川畑 誠 2015 「素描・古代七尾地域の集落遺跡の動向について」『石川県埋蔵文化財情報第34号』（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 藤田邦雄・久田正弘 2021 『七尾城跡II』石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 三浦純夫・川名 俊 2020 『七尾城跡I』石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター